

# 博物館だより



福岡の菅笠づくり風景（昭和戦前）

笠問屋で最後の仕上げをする女性たち。背後には発送を控えた菅笠が天井近くまでうず高く積まれている。

江戸時代、菅笠は加賀藩を代表する特産品であり、“加賀の菅笠”として全国的に著名であった。特に現在の富山県高岡市福岡地方は、現在でも菅及び菅笠づくりが盛んである。笠は角笠、三度笠、一文字笠、花笠など時代のニーズにあわせたいろいろなものが作られている。

最近では飾りものに、しめかざりや観光みやげものとして豆笠、ミニワラジなどの民芸品が作られている。

（写真提供：高岡市福岡歴史民俗資料館）

## 学芸ノート

### ■山町の1年と祭礼－高岡の夏祭調査から－

高岡御車山祭は、高岡の53ヶ町を氏子にもつ高岡関野神社（以下関野神社と略す）の春季例大祭の行事であり、例年5月1日に7基の山車が曳かれる。この山車と祭りは、国指定重要有形無形民俗文化財に指定されている。この祭りは、天正16年（1588）に、豊臣秀吉が聚落第に後陽成天皇と正親町上皇をお迎えした時に使用した鳳輦を、加賀初代藩主・前田利家が秀吉より拝領。二代目前田利長が、慶長14年（1609）高岡城築城の際に、これを町民に与えたことから始まるといわれる。後年、城下の10ヶ町に賜った山車を尊称して「御車山」といい、その10ヶ町を「山町」と呼ぶようになった。御車山は、京都祇園の祭礼にならって鉢山に改造され、関野神社の祭礼日に神輿とともに曳き廻された。曳山は、高岡の特産である金工・漆工・染織技術で装飾され、商工の町高岡の「町衆文化」の象徴として、今日に至るまで町の発展とともに継承されている。



初詣の参拝でにぎわう関野神社（平成18年）

正月の関野神社は多くの参拝客でにぎわうが、早くも、前年の大晦日の深夜より、同神社の一角にある大国社に参拝する山町の人々がいる。木舟町の若手で作る「蝶々会」（同町の御車山の鉢留に因む名）の会員10名余は、年が改まるとき社に続く参道を進み、御車山祭りの繁栄と町内の融和を静かに祈る。その後は、御車山保存会総会が山町の役員達により、毎年1月25日に開かれ、前年度の事業報告並びに今年の事業予定が決められる。町内有志が、2月下旬または3月頃から仕事や家事に一段落した時間に集まり、御車山の花傘作りをするなど、数々の準備が進められる。

山町と関野神社ゆかりの祭礼は、4月3日の与四兵衛祭に始まり、祭礼の宵祭と5月1日の奉曳当日に母衣（甲冑）を持つ6町内ほかで行なわれる母衣祭と神輿渡御、8月の各山町の夏祭りがある。夏祭では、市姫、布袋、秋葉尊、恵比寿、大黒などの神体（祭神）を祀る祭りが行なわれている。そして、9月10日の秋祭へと1年が流れる。

ここでは、1年の歳時記の中から、山町の夏祭りを中心について紹介する。8月に入ると次の順番で夏祭りが行なわれる。

8月2日 ○古木大神宮祭・坂下町

8月9、10日

○西の宮祭・守山町…御車山の本座である恵比須を祀る。

○大國祭・木舟町…本座である大國主命（大黒）を祀る。

○市姫祭・小馬出町…商売の神、市姫を祀る。

8月第3日曜日

○与四兵衛祭・二番町…御車山の由緒を守った義人を祀る。

8月19、20日

○布袋祭・通町…本座である布袋を祀る。

○住吉祭・一番街通り（一番町・三番町・源平町）

…本座の尉と姥は、謡曲「高砂」からとられ、それは住吉明神とゆかりがあり、祭神ともなっているとの説もある。

8月23、24日

○秋葉尊祭・御馬出町…本座の佐野源左衛門は火の神



西の宮祭・守山町（平成17年）

山町の多くの夏祭では、夜7時前後、日没後の暗い時に、町内の大人や年長の子供たちが、関野神社へご神体（その多くは、御車山に本座として座すもの）と神を迎えて行く。一晩町内の宿で祀り、翌日の日没後、神社へご神体を返すというのが一般的である。その間、祭壇の上には、三宝にのせて山の幸（四足の獣を除く）・海の幸・塩・米・果物などが供えられる。宿の幟幕や祭壇横の提灯の文様は、御車山ゆかりのものが使われている。

関野神社からご神体を迎える際、町内の年長の小学生が紋付・袴の正装で大人とともにご神体を乗せる唐櫃に付き従う。かつては6年生の男の子2人が唐櫃を持ち、ご神体を迎えた。町内の子供が減少した近年では、大人の介助で子供達がかづぐ。その年の宿にご神体が入られる以前に、行列は町内を一周する（御神幸）。宿の祭壇の上のお休み所にご神体が安座されると、人々の前で関野神社の神主により、太鼓の音をはさんで祝詞と玉串が捧げられる。翌日の夕刻、再び祝詞と玉串が捧げられ、ご神体は唐櫃に納められる。町内を一巡した後、神社へと戻し人々も付き従う。神社でも祝詞と玉串が捧げられ、祭礼は終わる。

古来、御車山の宵山の宿は、その年前後に町内へ新しく転入してきた人が誇らしい気持ちで引き受けたものであり、この夏祭の宿も、以前は30年に1回位の割合で廻っていたものという。しかし、昨今は住宅事情もあり、引き受けられる家（代宿）に町内としてお願いしている例もあるという。

宿での祭礼に参加し、神社への唐櫃の提灯行列に無邪気に従う子供達を見て、伝承の重要性を思い、この祭礼がいつまでも続いて欲しいとの思いを新たにした。



布袋祭・通町（平成17年）

（主査・学芸員 野口充子 記）

## 収蔵資料紹介

### ■報国号飛行機命名式記念写真「荒野日本晴号」

昭和19年（1944）

タテ8.6cm×ヨコ13.7cm

平成16年 荒野吉治氏寄贈



この資料は高岡百姓町（現横田町）の荒野商店（現日本晴酒造）・荒野権四郎氏が、海軍に献納した飛行機の命名式記念に発行されたもの。海軍省発行で「報国第二八六六号（荒野日本晴号）【艦上爆撃機】」とある。この資料のほか献納申出書や命名式関係の書類もあり、それによると献納機の代価は10万円（現在の約3千万円弱に相当）であり、命名式は海軍省主催で、昭和19年4月27日に高岡市博労町国民学校（現高岡市立博労小学校）において開催され、その諸経費も荒野氏が寄付している。

献納機とは戦時中、民間からの募金を軍に供出して献納された軍用機のこと。昭和7年（1932）から始まり、朝日新聞の献納運動などもあり、瞬く間に全国に広がった。陸軍は愛国号、海軍は報国号と呼ばれた。

現在のところ富山県からは愛国号が9機、報国号が12機の計21機の献納が確認できる（うち高岡市からは荒野氏の他、「高岡市民」から愛国号1機の計2機）。

### ◆新収蔵資料紹介（平成18年1月31日現在）

購入	資料 名 称	数量 分類	資料 名 称	数量 分類	寄贈者
1. 前田利長判物〔慶長9年（1604）8月24日付知行宛行状、宛所不明〕	1 歴史	19. 教育参考矢野動物園	1 民俗	野嶋咲恵氏	
2. 梅文蘭引（蒸留器）	1 民俗	20. 全国の雛人形図〔朝日グラビック付録〕	1 民俗	ク	
3. 河内山昌美撰『前田利家創業記』〔延宝3年（1675）、写本〕	1 歴史	21. 天神・隨身画像（木版多色刷り）	1 民俗	ク	
4. 『高岡産業博覧会 農業機械館 記念アルバム』〔昭和26年（1951）、高岡市発行〕	1 歴史	22. 二上山「平和の鐘」梵鐘拓本（4枚）〔平和祭りパンフレット〕	5 産業	ク	
		23. 楠崎宗重著『肉筆浮世絵』（昭和45年）	1 図書	河端嘉子氏	
		24. 高岡市記念イベント資料	一括	民俗 野村一郎氏	
		25. 青貝塗鏡箱制作工程標本資料	15 産業	黒田昌弘氏	
		26. 鶯塚暁珉作、米田鳩秀案「青銅一文字型水盤」（昭和5年）	1 美術	宮本良一氏	
		27. 鉄釜2点、鉄鍋2点、鰐節削りなど	7 民俗	筏井晴夫氏	
		28. フルイ、陶枕、一斗マス、地図など	一括	蒲田幸雄氏	
		29. 各種雑誌類	80 民俗	中島脩喜氏	
		30. 小学校各種教科書類	28 民俗	ク	
		31. 高岡鍛絵師・中山文太郎関係資料	8 産業	中山紀代氏	
		32. 四書五経など和本類	33 民俗	出町睦子氏	
		33. 竹田竹義作「雷文象嵌火鉢」（北陸電送株記念品、大正15年）	1 産業	荒俣勝行氏	
		34. 大坪秀嘉筆「越中国高岡関野神社祭礼繁昌略図附録」	2 歴史	大坪秀嘉氏	
		35. 德川家康書状（北条氏規宛）	1 歴史	寺畠喜朔氏	
		36. 刀 銘「肥前国住陸奥守忠吉」	1 美術	ク	
		37. 脇差 銘「賀州住兼若」	1 美術	ク	
		38. 日本画（岸岱、田能村直入、谷口靄山、江月宗玩など）	16 美術	ク	
		39. 書（市河米庵、西郷隆盛、福沢諭吉、山県有朋、伊藤博文、東郷平八郎など）	18 美術	ク	
		（受入順）			

### 郷土の歴史資料などの情報を求めています

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上で貴重な文化遺産です。当博物館では、古文書・生活資料などの収集保存を行い展示に生かしたいと思っております。情報がありましたら、是非ご提供をお願いいたします。

# 平成18年度 展示紹介

## ◆常設展 「郷土の暮らしと文化」—高岡の歴史・産業— 4月1日(土)～平成19年3月31日(土)

高岡市は、江戸初期の開町以来、銅器・漆器をはじめとする伝統産業を生み出し、今日まで商工都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあり、幾多の逸材を輩出してきました。

このような郷土の特性について、当館収蔵資料を中心に高岡の歴史・民俗・産業や郷土の偉人達を紹介し、地域学習の場として公開します。

## ◆企画展 「高岡の漆器職人・作家達」—昭和期の活躍— 4月28日(金)～6月25日(日)

高岡を代表する伝統産業「高岡漆器」の歴史は、江戸初期の高岡開町とほぼ同時にはじまり、簞笥や長持ちなどの指物に朱漆が塗られた「赤物」などが作られました。

江戸中期から後期にかけて名工が生まれ、また、幕末から明治期にかけて勇助塗や錫絵、青貝塗などの技法が確立され、以降産業として成立をみました。その後、明治27年(1894)設立の富山県工芸学校から、多くの職人や作家が輩出し、太平洋戦争中の材料も不足した時代を経て、今日まで連綿と続いている。

本展では、昭和期を中心に、平成まで活躍した高岡の漆職人や漆芸作家の足跡を、作品や下図類・制作用具・写真などにより展示・紹介します。

高瀬想風(錫絵1898～1977)、山崎立山(蒔絵1895～1969)  
大井見太郎(蒔絵1913～2001)、彼谷芳水(勇助塗1899～1994)  
布目弥逸(青貝塗1903～1988)、黒田儀太郎(青貝塗など1907～1988)、内島修蔵(彫刻塗1911～1988)を紹介する予定。



御所車蒔絵書棚下図(山崎立山 当館蔵)



## ◆企画展 「福岡の歴史と文化」

7月21日(金)～9月10日(日)

平成17年11月1日に高岡市と合併した福岡町には古代から現在に至るまでの史跡や文化財、民俗行事など多様な文化が育まれています。

遺跡の宝庫「西山丘陵」にある城ヶ平横穴古墳は、本県でも早い時期に考古学界の注目を集めた遺跡であり、源平合戦から戦国時代に活躍した石黒氏の木舟城は中世には珍しい平城です。

江戸時代、特産物の菅笠は「加賀の菅笠」として藩を代表する商品として全国に流通しました。また豪農の住宅・佐伯家は国より重要文化財に指定されています。「つくりもん祭り」は五穀豊穣を感謝して供えられる秋の収穫物が姿を変えたもので、全国的に有名な奇祭です。

本展では、広く福岡町の歴史や文化を紹介し、高岡・福岡両地域の交流の伸展をはかります。



木舟城跡出土遺物  
(写真提供・高岡市教育委員会)

## ◆企画展 「高岡の祭礼Ⅰ」—山町の歳時記—

10月6日(金)～11月26日(日)

高岡御車山を持つ山町と関野神社ゆかりの祭礼としては、4月の与四兵衛祭、御車山の宵山と当日(5月1日)の2日間に行なわれる母衣祭と御車山奉曳、神輿行列。また、8月には各山町の夏祭りがあり、市姫・布袋・秋葉尊・恵比寿・大黒様などのご神体を神社から町内へ迎えて祭りが行われています。

また、近年では、1月中旬頃の土・日曜日に土藏造りの町を中心天神祭りが、また2月中旬の土・日には雛祭りを行なっています。祭りへの協力の一方、各家では天神画像や木彫及び土人形などが12月の末頃から、1月25日まで祀られています。

長年続けられてきた「まつり」の形と伝承をその由来とともに展示・紹介します。



市姫祭・小馬出町(平成17年)

## ◆収蔵品展 「新資料展」

平成19年2月3日(土)～3月31日(土)

当館収蔵の歴史・民俗・産業資料などを新収蔵資料の公開もかねて展示します。